

平成24年度「地域活動支援・障害福祉サービス」実施事業・創作活動実施報告

地域活動センター とまり木
指定障害福祉サービス事業所 すみれ工房

1. 指定障害福祉サービス事業所（すみれ工房）のうち

一「就労移行支援事業」においては、「一般就労を希望する」利用者への職業リハビリテーションの実施により前年度以上の一般就労の実現を図り、ジョブコーチ事業の着実な実績確保に取り組んだ。

一「就労継続支援B型事業」においては、「通常の事業所に雇用されることが（当面）困難な」利用者への雇用に代わる労働保障の場として施設内外の多様な収入源を社会資源として活用し、動機付けとしての「工賃向上」に成果を出したが、月平均利用率は70%前後と低迷した。

2. 「地域活動支援センター事業」では、自立した日常生活又は地域生活を営むことができるよう創作活動や生産活動の機会提供及び社会交流及び促進一層創意工夫しつつ一定の成果（平均利用者数13名/日）を出すことができた。

新年度の喫緊の課題は、特に障害福祉サービス部門で定員充足、利用率の極大化に向けた支援実績及び「計画相談」事業所指定に向けた人的資源の確保である。

(実施行事)

1. 産業カウンセラー：高橋恵子氏によるカウンセリング（社会的自立に向けた相談支援） 原則：毎週金曜日（第一金曜日を除く）
2. 体力作り事業（健康・地域交流） 原則：毎月第四土曜日（福山市勤労障害者体育センター）
3. 「陶芸教室」（後藤英夫氏）（創作活動・地域交流） 原則：第二土曜日（6回/年：5月・6月・9月・11月・1月・3月）
4. 「折紙教室」（高橋敏子氏）（創作活動・地域交流） 原則：毎月第3土曜日
5. 観桜会（お花見4月第一土曜日） 親睦ボーリング大会（7月・2月）
6. 地域町内会夏季祭事（7月第四土曜日・8月第三土曜日）、「ふれあい福祉まつり」（10月第三土曜日、日曜日）、クリスマス会等地域資源との協働による社会参加活動支援（社会交流活動）
7. 工房取扱商品の販売促進（地域交流・授産活動）7月<6月より着手>、12月<11月より着手>

3. (財) 義倉助成 精神障害者地域定着・地域移行先進推進研修事業

<テーマ> ACT-Zeroに地域包括支援を実感する。

<実施日> 平成25年2月18日（月）9:00~16:00

4. 平成23年度 第一号職場適応援助者助成金受給資格認定（独立行政法人福祉医療機構）に伴う

ジョブコーチ（原田）稼働・・・知的障害者4名（A及びB）、精神障害者2名のフォローアップ

期及び集中支援期を担当

平成 24 年度 障害福祉サービス事業所すみれ工房 事業総括

○生産活動について

作業科目の面では昨年度に新規科目が追加されたことで充実しつつあり、作業工賃支給規定の見直しおよびポイント制導入にて精力的に施設外作業へ参加する動きも見受けられるようになったが、施設内作業の納品時における代替作業科目の確保が困難な状況は依然変わらず、引き続き代替作業科目の開拓が課題である。

なお、各作業科目の現状及び課題については以下に記述の通り。

・フルーツキャップ

施設外の作業科目や正確さを要求される作業科目への参加が困難な利用者にとって必須の作業科目である。一方で、習熟されていた利用者の就労による退所や新規利用契約者の参加により一時的に作業品質が不良となるなど作業品質の維持が課題として表面化した。他の課題として燃料費の高騰や納品に要する時間とそれによる作業の空白を解消するためにも代替となり得る作業科目の開拓は課題である。

・マルノウチ駐車場清掃

利用者からの積極的参加があり今後も継続し行っていくが、参加利用者の偏りも見受けられ他の利用者への参加促しが課題である。

・ホテル清掃

新規利用契約者の参加などにより、ほぼ固定化された状況ではあるが利用者の参加が安定した状況となっている。ただし、参加利用者によって仕上りの部屋数に差があり作業マニュアルおよび指導方法の再検討により全体的な作業効率および品質の向上を図る必要がある。

・リサイクル資源回収

今年度も担当支援員の変更があったが回収ルートおよび手順のマニュアル化にて目立った混乱は生じていない。参加利用者が限定されている状態は続いているが新規利用契約者の参加があるなど改善の様子もある。しかし、昨年度に比べて回収資源の買い取り価格下落と各協力事業所よりの物品減少とが相まって全体的な収益減となっている。

・徳永製菓

年間を通して日毎の作業量の増減が激しい一方で作業内容が多種となり、これまで参加が困難であった利用者の参加が可能となった面もある。フルーツキャップと併せて施設内での作業科目として重要な位置づけとなっている。

・ダイレクトメール封入・発送準備

株式会社 FPC および福山市医師会の封入作業であるが、株式会社 FPC での作業については年間を通して安定的な作業量および参加状況である。福山市医師会については定例の封入作業に加えて付随する発送準備作業や別途新規での発送作業の受注もあり施設内での作業科目充実に必要な位置付けとなりつつある。

- ・プレスシード配布

昨年度同様 2 名の利用者が参加。しかし 12 月より 1 名が体調を理由に継続を断念。他利用者に引き継ぎを募集し 1 名が引き継ぎエリアを継続配布されることとなった。また、もう 1 名が 1 月中旬より就労にて退所されるにあたり、エリアを引き継ぐ利用者を募集するも希望者がおらず、「とまり木」にてエリアを引き継ぎ継続配布していただくこととなった。

- ・社団法人福山市医師会 立体駐車場環境整備

土曜日の午後ということもありある程度固定化された参加者ではあるが長時間の施設外清掃という点で他作業科目にはない重要な位置付けとなっている。3 年目を迎えるにあたり疲労にて清掃用具の欠損等もあり、清掃用具の一部買い替えを検討する必要がある。

- ・ふれあい喫茶 接客業務

今年度当初は 3 名の派遣契約利用者にて開始するも 4 月末に 1 名が通所途中に交通事故に遭われ、療養のため 8 月迄入院される。退院後も精神的不安定が顕著であり施設内作業にて現在まで調整を継続されており、接客業務への復帰は依然目途が立っていない。しかし、5 月より 1 名の新規利用契約者が接客業務に従事。これにより 4 名の派遣契約利用者となるも前述の調整中である利用者を含め、派遣日数を調整している利用者もあり、実質的には平均して 2 名の利用者が接客に従事している状況である。その中において 25 年 2 月 18 日に 1 名、3 月 11 日に 1 名と 2 名の就労が決まり現在ふれあい喫茶にて接客業務に従事されている派遣契約利用者が 1 名のみという状態となっており、通院および体調不良等にて欠席された場合には接客へ従事される利用者が不在となる状況がある。そのため、通年にて新規派遣契約利用者の募集を全体・個別を併せ行なってはいるが、就労における希望職種および適性等から困難な状況であり、ふれあい喫茶での接客業務という作業科目自体の位置付けおよび見直しを、運営母体である福山市精神障害者家族会とも協議していく必要がある。

○年間行事について

昨年度同様、ミーティング等にて確認し利用者のニーズに沿った行事实施を行った。具体的には全体行事としての七夕杯・節分杯（弥生杯）ボウリング大会、近隣町内会夏祭りへの参加、ふれあい福祉まつりへの出店など、まどか利用者全体のミーティングにて行事内容の決定や役割・進行を決めるなど施設主体から利用者主体へとより明確にシフトする方向で実施できた。

また、施設主導での参加ではあったが震災復興継続支援チャリティバザーへの出店・参加など例年にはなかった地域主催イベントへの参加など新しい試みも実施できたが、行事への全体的な課題として参加利用者の偏りが顕著であり、利用者個々の意識付けおよび参加しやすい行事の実施が課題となっている。

一昨年度よりの『お茶代検討委員会』については、昨年度より実施している委員によるお茶代の集金方法・管理・購入・お茶当番を支援員がサポートを行う中で、利用者相互による管理・確認ができつつある。

○就労支援について

今年度の就労実績として、移行支援事業所では 5 月 1 名、1 月 1 名、2 月 1 名の計 3 名であり内 1 名は就労継続支援 A 型事業所にて雇用され。他 2 名については現在も雇用継続中である。就労継続支援 B 型事業所では 1 月 1 名、3 月 1 名の計 2 名であり、1 名は就労継続支援 A 型事業所にて雇用され、他 1 名については現在も雇用継続中である。

障害者委託訓練については今年度の利用希望がなく、利用者個々に紹介するも受講希望には至らなかった。訓練内容のマンネリ化も要因として考えられる点ではあるが、就労へ向けてより実践的な東部地域障害者就業・生活支援センターとの連携による職場実習への関心拡大も要因として考えられる。その中で就労継続支援 B 型事業所より 1 名が 1 月と 2 月で延べ 6 回の職場実習を実施した。次年度においても委託訓練と職場実習を併せて利用者への紹介を行なっていくことは必要不可欠である。

前年度よりの課題としては現在行っている就労移行支援および就労継続支援 B 型両事業の利用希望者新規発掘を目的とした医療機関をはじめ関係機関とのネットワーク強化活動の継続・範囲拡大が次年度の活動方針と併せて優先課題の一つである。

平成 24 年度 地域活動支援センター とまり木 事業総括

【生産活動】

作業科目は「フルーツキャップ袋詰め（柵永山）」、「カタログ封入作業（まるじょう柵 トータルライフサポートふくやま）」、「ビスワッシャー通し（柵デイズ）」、「洋服タグ付け（ビッグベアー(有)）」、等、施設内での作業科目が充実傾向にある。

更に「アパート清掃（あきつ住研柵）」等の施設外作業も行っており作業科目の幅も広がっている。

生産活動においては、作業に楽しみや達成感を持っていて、「就労に付きたい」と言う目標を持って作業している利用者は多く、作業に対する意識が高い。

更に、将来的な就労継続支援 B 型移行を視野に入れ、徐々に施設外作業も増やし作業選別の自己決定機会を多く作り「みんなで協力して作業を達成する場所。」に加え「一人一人目標に向かって自己決定をする場所。」にしていきたい。

【各作業品目について】

・フルーツキャップ

習熟度が高く利用者全員が参加できる作業品目として定着していて今後も重要な作業品目である。

新規作業科目増加の影響による作業時間数の減少に伴い収入減の傾向があるが新規利用者が多い「とまり木」において、利用者同士の会話作りにも役に立っている作業品目で、今後も継続する意義は高い。

納品業務、伝票処理にも利用者の参加を促せるようにする事が今後の課題、「すみれ工房」と連携をとりながら改革していきたい。

・トータルライフサポートふくやま

短期納期の品目にいろいろな作業を提案していただき、利用者が柔軟に対応できている。画一した作業工程を好む傾向にある利用者ではあるが、経験のないことに積極的に取り組んでいくことは大変有意義である。今後もいろいろな新規作業を積極的に取り組んでいきたい。

更に本年度は定期的に発注され障害者作業所の連携で承っている「柵まるじょう カタログ封入」を新に品目に加えていただき他作業施設とのネットワークも構築する事ができ始めた。

共同での作業ができる様になり今後の展開を期待できる。

・(有)ビッグベアー

昨年度より引き続き「洋服タグ付け」「ギフト箱組立」等洋服の店舗販売用の工程の一部を受注している。

工賃効率もよく利用者が心待ちにするようになってきた、更に先方の社長以下の方々は大変理解があり、納品時には利用者 1 人 1 人に声をかけてもらい交流が深まっている。今後も信頼関係をより強くし、社会参加と自立を目指したい。

・柵デイズ

今年度より新たな作業受注先とし取引を開始、定期的な発注を頂いており今後作業品目増加を期待する。

・アパート清掃

作業頻度（月 1 回 3 名）が少ないので、参加希望者は多い。特に今期は、退所者（すみれ工房への異動等）・新規入所者が多く、毎月作業参加者が変わることもあり全体的に参加者は増えた。しかし初めての参加者が多く習熟度は低い。今後は利用者が安心と自信を持って作業を行なえる体制作りをしていく必要がある（例：作業工程のマニュアル化）。また、他の清掃業務等施設外作業の充実をしていきたい。

【創作活動、レクリエーション活動】

月一回の「折り紙教室」、三吉公園での「公園レクリエーション」障がい者体育館での「スポーツレクリ

ーション」利用者主体で実施される「調理実習」、隔月で行われる「陶芸教室」などを行った。更に利用者提案での「所内演奏会」2回。社会資源利用として「福山美術館見学」「カラオケボックス体験」等の活動を行った。活動によっては参加人数が少ない時もあるが参加される利用者は普段見せない表情、行動を示し有意義に過ごしている。

【地域交流】

「地域町内会夏季祭事」「ふれあい福祉祭り」へ参加した。

参加利用者は非常に一生懸命で地域の方々とも積極的に交流し行事を楽しんだ。社会参加の機会となり、障害者理解のための啓発活動にもつながっていると考える。しかし、参加は一部利用者に偏っておりもう少し全体的に参加できるようにしていきたい。

来年度には「企業同友会」「商工会議所」「ライオンズクラブ」等の各種行事への参加、あるいは企業訪問を増やし、地域、企業とのネットワークを構築していきたい。